

## 広域連携による県北地域の活性化について



長崎県理事兼県北振興局長

まつ お ひで のり  
松 尾 英 紀

昭和55年 4月 長崎県入庁  
平成17年 4月 政策調整局政策企画課企画監  
平成18年 4月 政策企画部政策企画課企画監（組織改編）  
平成20年 4月 観光振興推進本部副本部長  
平成23年 4月 企画振興部文化観光物産局参事監  
平成24年 4月 対馬振興局長  
平成26年 4月 産業労働部長  
平成28年 4月 理事兼県北振興局長 現在に至る

### はじめに

県北振興局の管轄区域は、本県本土の北部から佐賀県西部に接する地域で、佐世保市など4市5町に及んでいます。西は、宇久島、小値賀島から東は伊万里湾に至るまでの海域に数多くの島が点在し、陸地には多くの山岳、丘陵が起伏して海岸線まで迫り、高低差のある複雑な地形を形成しています。

そのような地理的特性から西海国立公園や玄海国立公園、大村湾県立公園や北松県立公園などに指定され、九十九島に代表される風光明媚で豊かな自然、中山間地域の棚田など美しい景観に恵まれています。

また古くから大陸との交易が行われており、遣隋使や遣唐使の寄港地としても知られ、さらに松浦水軍の本拠地が置かれたところであり、松浦市の鷹島などに元寇の遺跡を有しています。平戸オランダ商館の設置など西洋とのつながりも深く、佐世保には明治以降鎮守府が置かれるなど、多様な歴史により培われ



九十九島

た文化や文化遺産を有しています。

さらに県北地域は、佐賀県と密接な関係にあります。松浦市福島町、鷹島町のように陸路では、佐賀県の地域を通して入る地域や、伊万里湾など共通の地域資源、銀行、百貨店など商圈の同一性やJR佐世保線、松浦鉄道など共通する公共交通機関を有するなどの経済的なつながりも深く、肥前窯業など地域を支える産業の歴史的なつながりもあります。私も今年4月に赴任以来、県北地域で見かける佐賀ナンバーの車の多さに、そのことをつ

くづく感じているところです。

## 県北地域の現状と課題

昨今、全国的な課題となっている人口減少・超高齢化問題ですが、長崎県においては全国よりも先んじて人口減少が始まっており、1960年に176万人であった人口をピークに2015年には138万人に減少しており、このままでは2060年には78万人に減少してしまう予測となっています。年間5～6千人の転出超過が生じており、その8割を15～24歳の若年層が占めるという状況です。県北地域の市町の人口は、平成27年国勢調査で見ると約39万3千人で、県全域人口の28.5%を占めています。2060年における県北管内市町人口は約21万4千人と推計されており、減少率は45.6%で、県全体の減少率に比べ2%ほど高く

なっています。

県では、2060年に目指すべき本県の人口水準を100万人規模とし、そのために必要となる社会減（転出超過）対策として良質な雇用の場の確保、若年者の県内定着促進、UIターンの推進に取り組むこととしており、自然減（出生数減）対策として、結婚・妊娠・出産・子育てにおける県民の皆さんの希望を実現できる環境の整備に取り組むこととしています。さらに具体的な対策について平成27年10月に「長崎県まち・ひと・しごと総合戦略」、12月に「長崎県総合計画チャレンジ2020」を策定したところです。

県北地域における対策としては、総合戦略のなかに「広域連携の推進による県北地域の活性化」として、県境周辺地域という県北地域の特性を活かし、佐賀県との広域連携の強化による交流人口の拡大等を図ることとして



おり、総合計画においては、県北地域のめざす姿を「西九州自動車道などの高速交通網の整備や国際港としての佐世保港機能充実を図り、活発な他県や海外との人・物の流れによる、賑わいにあふれ、あらゆる産業が発展する活力ある県北地域」と定め、「1 福岡県との近接性など県北地域の特性を活かした人が集い、賑わうまちづくり」、「2 県北地域ならではの優れた資源を活かした力強い産業拠点づくり」、「3 すべての人が安心して活き活きと暮らせる住みよい県北地域づくり」といった3つの方向性でそれぞれの取組を進めていくこととしています。

### 地域を取り巻く新たな要素

このような現状のなか、県北地域を取り巻く状況にも変化が起きています。

ひとつ目は、西九州自動車道の整備に伴う、県北地域及び福岡都市圏、隣県佐賀県との時間的距離の短縮です。例えば、この道路により、松浦市と福岡市間の移動時間は3時間から1時間10分と約2時間短縮されることとな



整備が進む西九州自動車道

ります。区間内はほとんど無料であり、地域間の交流促進、農水産物など地域ブランドの広域展開、佐賀県の沿線市町を含む広域連携による観光活性化など、ひと・ものの流れの加速化が期待されます。

二つ目は、佐世保市の中核市移行です。今年4月1日、長崎県内では長崎市に次ぎ、県内2番目の中核市となりました。中核市は地域発展のけん引役としても期待されており、人口減少や高齢化が進む中で、医療や交通、産業など中核市と周辺自治体が連携して、地域の社会・経済を支えていく「連携中枢都市圏構想」についても積極的に検討を進められることとなっています。佐世保市が県北地域及び西九州北部地域の拠点都市として周辺市町との連携を進め、圏域全体の発展をけん引する中心的な役割を果たすことが期待されています。



佐世保港のクルーズ客船

さらに三つ目は、地方創生に係る佐賀県と長崎県との連携協定の締結です。これは、現在、地方が抱える人口減少や地域活力の低下といった危機的な課題に対し、本県と県土を直接接する佐賀県と交流人口の拡大など広域

西九州自動車道と日本遺産「日本磁器のふるさと肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」の申請市町



※赤で着色した市町は、日本遺産「日本磁器のふるさと肥前」申請市町

的に施策展開を行い、解決を図ることを目指したものです。

このように、県北地域を長崎県のエリアのみで考えるのではなく、隣接の佐賀県県境周辺地域を含めた広域的なエリアで捉えることが求められてきています。

このことは、前述した総合戦略や総合計画にも盛り込まれた視点であり、県北地域の人口減少対策の大きな柱として取り組む必要性を強く感じています。

### 広域連携による交流人口の拡大

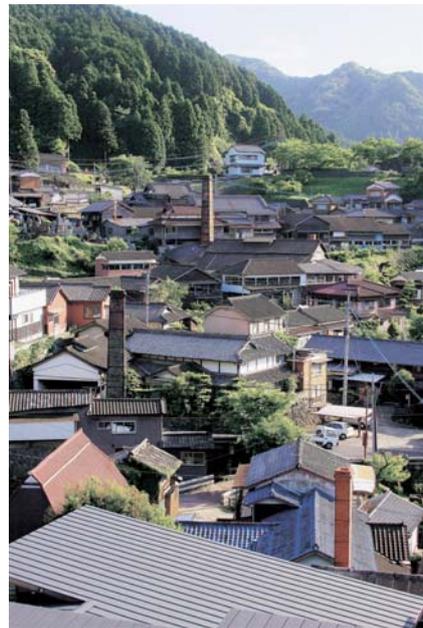
広域連携の視点における取組として、すでに佐賀・長崎両県連携協定にもとづく取組をスタートさせています。それは、佐賀県及び関係する5市町(唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町)と長崎県内の3つの市町(佐世保市、平戸市、波佐見町)と連携し、肥前窯業に関するストーリーについて日本遺産認定を目指し実施したのですが、関係自治体とガッチリとスクラムを組み、協議を重ね取

り組んだ結果、「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」というタイトルで今年4月にめでたく日本遺産認定を受けたところです。7月に岐阜市で日本遺産認定式が行われ、私も出席させていただきましたが、授賞式と同時に開催されたサミットにおいて他地域の日本遺産認定後の取組をお聞きし、また日本遺産に対する文化庁や有識者のご意見を直接お聞きしたところです。

現在、関係自治体及び団体からなる「肥前窯業圏」活性化推進協議会を設立し、「肥前」エリアの認知度向上、豊かな地域資源の魅力発信や誘客対策に取り組んでいるところですが、今後更に、地域一体となって誘客のためのコンテンツの充実、受入体制の整備を図りたいと考えています。そのような面的な取組が、結果的に県北地域のイメージアップ、周遊促進、滞在時間の延長につながり、お互いの地域が潤うこととなると思います。

このように、すでに県域を越えて広域的な視点で交流人口拡大の取組をはじめているところですが、今後、県北地域のテーマパーク、ハウステンボスや佐世保市の九十九島、松浦市の体験民泊、平戸市の海産物など豊かな観光資源と、隣接する佐賀県の地域資源をうまく組み合わせ、滞在時間の延長、宿泊増につながる周遊ルート構築を進めていきたいと考えています。

さらに、県北地域では、先に述べた肥前窯業に関する日本遺産のほか、明治時代に海軍の本拠地として鎮守府が置かれた佐世保市と同様に鎮守府が設置された横須賀市、呉市、



陶郷 中尾山

光が透けるほど薄い卵殻手らんかくて（佐世保市三川内）

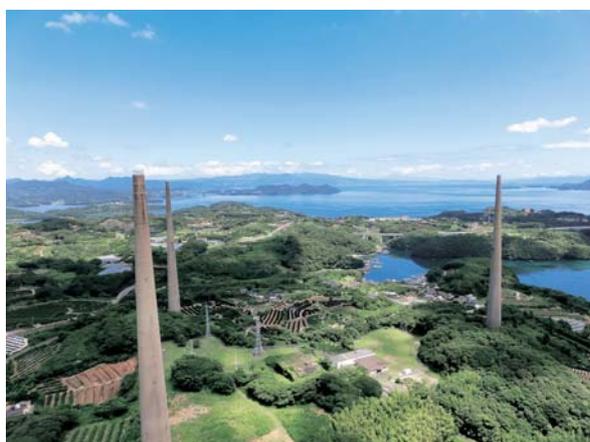
皿板を運ぶ生地職人（波佐見町）

舞鶴市からなるストーリー「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」が今年4月に日本遺産に認定されています。日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定する制度ですが、2020年の東京オリンピックに向け、ゴールデンルートに集中する外国人観光客を全国各地に呼び込むことを目的として平成27年度に創設された制度であり、平成28年度認定された全国19件のうち2件が県北地域での認定です。地域の有する価値ある魅力的な歴史・文化について再認識したところです。

現在、佐世保港へのクルーズ船の寄港も増



凱旋記念館（佐世保市民ホール）



旧佐世保無線電信所施設

えている状況にあり、県北地域の二つの「日本遺産」や世界遺産候補の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」などの資源を活かし、外国人旅行者に向けた受入体制整備も進め、国内のみならず、国外からの誘客も図っていきたいと考えます。



旧野首教会堂

## 長崎県（県北地域）の新たな施策

交流人口拡大のほか、人口減少対策、特に社会減対策に対する県の新たな取組としてながさき移住サポートセンターの設置、ながさき就職応援サイトNナビを紹介させていただきたいと思います。

ながさき移住サポートセンターは、総合戦略の本格的な推進に向け、県及び県内の21市町が一致団結して地方への人の流れを加速し、地域に必要な人材を確保するため、県・市町協働型で立ち上げたもので、仕事・住まい・暮らしに関して移住者の視点に立ち、移住検討段階（移住前）から地域への定着（移住後）まで途切れることなく一貫した施策を行うことを目的としています。

また、ながさき就職応援サイト、通称Nナ

びは、県内の求人情報、企業情報や本県の暮らしやすさ情報等を県内・外の学生、保護者およびUIターン希望者等に発信するサイトで、登録すると希望求人をメールで入手できます。就職活動を行う方だけでなく、就職活動をサポートする保護者の皆様も登録可能であり、お子様に紹介したい求人チェックができます。長崎県内及び県北地域には、技術力が高く、素晴らしい製品を製造している企業、しっかりとした理念と、自社の技術・製品にプライドをもって研鑽を積まれている企業、社員教育に前向きに取り組まれている企業など魅力的な企業があります。なかなかこのような企業情報がお伝えできていないため、このシステムにより企業の情報を必要としている就職希望者、関係者の皆さんに直接お届けします。

これらの取組により、長崎県の暮らしやすさをアピールし、ひとりでも多くの方に長崎県で働く、暮らすという選択をしていただきたいと考えています。

また、雇用の場の創出・確保としては、地域の重要な産業である第一次産業の強化による就業支援もしっかりと取り組んでいかなければならないと考えています。県北地域の農林水産業では、「長崎和牛」、「西海みかん」、「長崎玉緑茶」、「長崎とらふぐ」、「長崎いさき」、「九十九島かき」、「平戸菌床しいたけ」など優れたブランド品が多く、高付加価値化、6次産業化及び販路開拓を行うなど産業の基盤を強化するとともに、農業では農地中間管理事業を活用した経営規模の拡大やいちご多収

品種「ゆめのか」への転換、水田裏作を活用した新たな加工たまねぎ産地づくりに取り組み、合わせて所得向上も図ることとしています。また、県内生産の約5割を占めるなど、水産県長崎を支え、県北地域の主要産業である水産業は、収益性の高い漁業経営体の育成、養殖魚の産地加工の推進、観光業と連携した交流の促進などを図るとともに、水産物の国内外での販路拡大に向けた佐世保・松浦・平戸の各魚市場の再編整備や機能拡充も推進してまいりたいと考えています。

特に、最近の動きとして、松浦市にはJR九州ファームが平成27年に農業参入し、アスパラガス・ブロッコリーの生産をスタートして



西海みかん



長崎とらふぐ



整備が進むJR九州ファームのビニールハウス

います。今後、計画通りに整備されると九州一のアスパラ生産体制となることを見込まれており、このような農業法人の参入が進むことで雇用が生まれるものと思います。また畜産業も県北地域の主要産業ですが、労力軽減、生産コスト低減が進むことで更なる規模拡大、飼用頭数増が図られることが期待され、これまで放牧等によりこの労力削減等を行ってきたところですが、県北地域においては、離島や中山間地が多いことにより、牛舎の周りに放牧のための広大な敷地の確保が難しいなどの悪条件もあります。そこで、ICT技術を活用して遠隔地の放牧地を管理する手法を構築し、牛舎から離れた放牧場での牛の管理を行い、繁殖管理や草地管理の労力を軽減する「スマート放牧システム」の取組を進めています。県北地域の離島である小値賀町をこの実証フィールドとしていますが、確立できれば、本土地区でも活用でき、ICTに強い若者、企業の参入も見込まれます。

## おわりに

このように県北地域には多くの魅力ある資源があり、その資源を活用した地域活性化のための新たな取組が始まっています。そのような中で私は、県北地域の活性化、人口減少対策のキーワードになるのは『広域連携』だと考えています。

県北振興局では、この『広域連携』を中心に据え、佐世保市において検討されている「連携中枢都市圏構想」の進捗状況を踏まえるとともに、西九州自動車道の整備、日本遺産の認定や佐世保港へのクルーズ船増加などを絶好の機会と捉え、関係自治体や民間団体など地域の皆さんと連携し、一丸となって地域の重要な課題である人口減少対策に全力で取り組んでいきたいと思っています。



弓張岳（佐世保市）からの夜景